

小嶋委員 本推進会議で毎年点検及び見直しを行うということだが、環境基本計画は平成33年度までの計画なので、基本的なフレームは変えずに一部の見直しを行うという理解で良いのか。

事務局 現在、国においても、地球温暖化対策の推進に関する法律の関係で当初25%削減となっていたが、第4次環境基本計画では大きく変わっていない。1つのスパンとして10年と考えているが、もし日本の流れが大きく転換することになれば、3年から5年で見直しが必要になってくる。
しかし、計画策定した分についてはPDCAをしながら、達成したものについてはそれ以上を目指していくとか、10年かけても目標値に近づかないものであれば新しい政策が必要であるなど、必要であれば見直しを行う。
おおむね10年、短い期間では総合計画に合わせて平成27年に何らかの形で動くかもしれない。

吉川委員 資料②8ページのPDCAのうち、本推進会議はチェックとアクションを行うという位置付けでいいのか。

事務局 単にチェックだけではなく、例えば奈良らしい環境の取組など本推進会議で提案があればアクションも起こしていただき、新しい施策や事業につなげていくこともお願いしたい。

吉川委員 旅館業においては、できるだけ活性化したいと思っているので、例えば、環境の地産地消をからめて、奈良の特産を使って環境にやさしいものを地元の生産者と一緒に考えていったらどうかということもあるのか。

事務局 現在、大和野菜があちこちで使われており、奈良の野菜が前面に出て来ている。また他の分野では、県がエネルギービジョンを打ち出しており、今年4月からは県にエネルギー政策課ができるようであり、市でもエネルギー政策課を新たに作る予定である。
時の流れによってどこに主眼を置くかという部分はあるので、その流れを読みながらPDCAサイクルを回していきたい。基本計画の骨格はあるが、時代の流れによって強弱は出てくると思う。



3 重点的取組事項について（資料③）

○油谷課長補佐から重点的取組事項（案）について説明した。

本推進会議では、主に以下の2つ

- (1) 施策の点検・評価
- (2) 推進方策の検討

○続いて、油谷課長補佐から上記(1)施策の点検・評価について、資料④で説明し、評価方法について提案した。

4 スケジュールについて (資料⑤)

○油谷課長補佐から、平成25年度年間スケジュール (案) について説明した。

- ・今回の会議を受けて、平成24年度 (平成23年度実績) 評価方法を決定し、各委員に評価をお願いする。その後、各委員の評価を取りまとめて、平成25年度第1回推進会議で本推進会議としての評価を確定し、その結果を環境審議会に報告して、指標の進捗状況及び評価を加えた形で、平成24年度 (平成23年度実績) 年次報告書「奈良市の環境」を発行する予定である。

【質疑・意見の要旨】

井上委員 環境基本計画 (改訂版) は平成24年度からの計画であるため、平成23年度の計画が分からないので、平成23年度実績を評価することはできないと思うが。

事務局 新計画の指標について、旧計画で関連する事業を挙げているので、平成23年度の実績を見ていただいて評価していただきたい。

井上委員 平成24年度が終わろうとしているのに、なぜ平成24年度の評価をしないのか。

事務局 3月31日で平成24年度事業が終了し、その後平成24年度の自己評価 (行政評価) は7月頃に出てくると思われる。本推進会議では平成25年度第3回の会議で平成24年度の評価をしていただくことになると思う。
今回は、平成24年3月に改訂版を策定したことも盛り込んだ形で平成23年度実績報告書を作成したいと考えており、最終的には「奈良市の環境白書」のようなものを作る途中段階とだけ思っていたらと思う。

井上委員 環境白書はいつ頃発行予定か。計画をはっきりさせて、それに向かって、いつ何をするのかということを明確にした方が良い。

事務局 平成24年度実績報告書から「奈良市の環境」をバージョンアップして「奈良市の環境白書」にすることを目指しており、平成25年度第4回推進会議を経て、奈良市環境審議会にかけたのち、平成25年度末に発行予定である。

井上委員 民間では考えられない1年遅れということですね。

西岡委員 平成23年度実績の評価ということだが、資料ではプロセスが少しだけでほとんど実績となっているが、実績での評価をするということですね。

事務局 指標に関連している事業の進捗状況を踏まえて評価していただければと思う。

遊津委員	市域の温室効果ガス排出量は国のデータを基に算出しているため、1年遅れのデータになるということだが、そろそろ平成23年度の算出ができるのではないかと思う。
清水委員	各委員がそれぞれ評価を出すということだが、各委員の評価にバラツキがある場合はどうするのか。
事務局	各委員の評価をとりまとめて、それを基に平成25年度第1回推進会議で議論していただき、推進会議としての評価をまとめていただくことになる。
清水委員	判断基準は指標である数字から判断していくことになるのですね。数字だけで評価できない部分もあるので難しい。
井上委員	例えば、目標を100として5つの施策を計画し、そのうち3つの施策のみ実施し2つの施策は実施できなかったが、110達成した場合、目標は達成できたので、その3つの施策が有効だったと考えられる。それを記録として残せば良い。
清水委員	資料④12ページ 達成度の評価基準について、3点（ほぼ達成）と2点（少し達成）の違いが良く分からない。委員の主観が入るので、達成度については何%と決めていただいた方が良いのではないか。
井上委員	達成度の評価基準を何%と決めれば、各委員が評価しなくても、1人が計算すれば済む。
事務局	一応、事務局では3点と2点の間が50%くらいだと考えている。
井上委員	<p>ほぼ達成している（3点）は、もうちょっと頑張れば達成できたぐらいなので、もっと高くなると思うが。</p> <p>達成度の結果そのものが良いとか悪いとかではなく、目標値を達成できなかったが、職員や市民もやろうとしてできたことを評価する。やることはやったが目標値を達成できない場合は、施策が悪いので、点検・評価を受けて次の施策を考え、改善点を考える必要がある。</p> <p>達成度は、はっきりと数字で評価して、次の施策のために何を見ていくかということに力を入れていけばいいと思う。</p>
事務局	評価シートにはコメント欄を設けているので、コメント欄でそのような改善点等について記入していただければと考えている。
井上委員	そのコメントを一番書けるのは、実際に施策を実施した者だと思う。
遊津委員	温室効果ガス削減については、原発が停止していることから原単位自身が変わってい

る。当初立てた計画を実施していても目標を達成できないのは当たり前である。すぐに奈良市だけで出来るものではない。そのような場合は、目標を達成していなくてもやることをやっていたら評価は「○」になるというふうに考えてもいい。その辺りを明確にしてやっていかなければいけない。

井上委員 情報として、平成23年度の具体的な目標も出してもらえれば、頑張って評価する。

遊津委員 平成23年度までの実績と目標値を出していただいて、評価すればいいのですね。足りないデータなどがあれば、また事務局に連絡すればいいか。

事務局 はい。環境基本計画の上位である総合計画で実績等は実施しているはずなので、情報提供はさせていただきたい。そこで漏れがあるようだったら、担当課への照会により情報を集める。

当課で作成した評価シートの項目について、達成度、波及効果、効率性の3つを挙げているが、表現的にはこれでよろしいでしょうか。

井上委員 達成度は、何%と決めれば数字で誰が評価しても同じである。数字とは別の所について評価すればいい。

遊津委員 達成度は、事務局で入れてもらえればいいと思う。それ以外の部分について評価をする。

吉川委員 指標は全部でいくつあるのか。

事務局 資料④12ページ 評価対象指標数にあるように合計34指標。

吉川委員 委員の見解として評価すればいいのか。

事務局 はい。

清水委員 提供してもらおうデータも難しいだろう。

吉川委員 担当課が評価したものを推進会議委員で評価する方が良い気がする。旅館組合の取組等について評価するなら出来るが、一市民としての意見は言うが、なかなか難しい。

遊津委員 専門分野なら評価しやすいが、範囲が広いので、私も難しいと思う。専門外の所は、変に評価するよりも白紙の方がいいかもしれない。

井上委員 二度手間になるので、行政評価を見て判断すればいいと思う。

清水委員	行政が評価する場合は、担当課が評価しているのか。
事務局	担当課が評価しているが、市民ワークショップの際にもあったように、考え方が課によってバラツキがある。例えば、単年度予算的に100%執行したら100%達成という考え方をする課があるが、何もかも全て達成しているのかというと少しおかしい。10年後を目指した形で、今年度何%達成したかという考え方で確立してもらう必要がある。
井上委員	それは仕方ないと思う。本推進会議で、この評価方法がいい！というところがあれば、他もこの方法でやって欲しいということを出して、次年度から見習ってもらうような報告書の書き方をすればいいのではないか。
清水委員	担当課の評価をしてからであれば、スケジュール変更になりそうか。
遊津委員	以前、県の会議に出たが、県は全くの縦割りで回答がないところもあった。今回、指標の評価も含めて各担当課にチェックをしてもらうことで、各担当課に環境基本計画を認識していただき、さらに本推進会議での評価をフィードバックすることがいいと思う。ぜひとも本推進会議でやっていただいて、今後、他の市町村の参考事例になればと思う。 やっていただくことが主旨なので、前向きになってもらうように評価させていただきたい。
事務局	市も初めての試みなので、やってみて不具合があれば、本推進会議で検討・改善していきたい。
遊津委員	まず、達成度は何%と決めてもらいたい。 また今後、目標値自身甘いものがあるので、現実を踏まえて、次の段階として、こうあるべきという数値をできるだけ入れていただけるようにしてもらいたい。
事務局	おっしゃるとおりだが、市の関連計画に基づいた数値であるため、難しいかもしれない。反映できるのであれば。
事務局	資料④12ページ 達成度の評価基準について、4点、3点、2点、1点をそれぞれ何%に設定したら良いと思われませんか。
清水委員	人によって違うと思うが、私は4点が90%かと思う。
小松原委員	最近、大学の評価は5段階になっており、90%はA+評価だと思う。そう考えれば、4点が80%、3点が70%、2点が60%、1点がそれ以下でいかがでしょう。

事務局	他にご意見はありませんか。
井上委員	私は○か×しかないと思うが、それで結構です。
清水委員	○、△、×とかでしょうか。
小松原委員	<p>評価ということは、それぞれの評価する側がどういう観点から何をどう見るかということになるが、達成度だけで見ると0点～100点で、それに対して、各委員がどういう要素で加点減点するかという所でそれぞれの考えや個性が出ると思う。少なくとも、評価に関して言えば、公正な評価というのはある意味でありえないが、厳密性や正確さということ、本推進会議できっちりオーソライズしていくことが重要である。</p> <p>今回の場合、行政評価も含めた自己点検・自己評価を本推進会議で第三者的に評価していくことになるが、その自己点検・自己評価の結果を我々がこれからどう評価していけばいいのか、そのやりとりのプロセスになるのかと思う。まずは原案（自己点検結果）を出していただければ。</p> <p>達成度を○△×にするかということについては、各委員の考えによると思う。</p>
遊津委員	<p>小松原委員がおっしゃったように、自己点検と外部評価は重要だと思う。その辺りをしっかり認識してもらうことが大事だと思う。</p> <p>また、達成度を点数にした場合、どれだけ意味合いがあるのかと感ずることもあるので、○△×にしてもいいとは思う。</p>
井上委員	<p>委員によって考えが異なる。</p> <p>例えば、ペーパーテストで答えが決まっているものが達成度で、それ以外に記述式のもので必要な要素が入っているか抜けているかについて、評価の部分になると思う。全然こだわらないので、80%、70%、60%でも、○△×でもどちらでもいい。</p>
清水委員	客観的に数字を決めれば、達成度は事務局で計算できるわけですね。
事務局	そのとおりです。
岡野委員	34個の指標を、8人の委員に振り分けて評価するのでしょうか。
事務局	各委員に34個の指標全部をそれぞれ評価していただくことになる。
岡野委員	それぞれということは、34個全部を評価して、最終的に皆で話し合っって1つの評価を作り上げていくということですね。
事務局	<p>その通りです。</p> <p>○△×の場合は、どのような設定になるのでしょうか。</p>

清水委員	私が当初言っていたのは、主観が入るので何%に決めた方がいいということであったが、難しいだろうか。
小松原委員	教育的には、「～ができるようになる」という目標に対して点数化する。そう考えると、何ポイントという積み上げで評価が決まっていくので、難しいことではない。しかし、今回の場合は、そのような評価にはなじまない側面もあると思う。 人間というのは、出来るようになれば嬉しい、また目標にもなる。例えば、私は今日も階段を使って上り下りしているが、職員の皆さんが課で何人階段を使って何日上り下りしているかということが1つの到達目標になると思う。そういうことを考えてみたらどうかと思う。
井上委員	先程、小松原委員がおっしゃったように、80%、70%、60%でいいのではないのでしょうか。
事務局	では、4点が80%以上、3点が70%以上、2点が60%以上、1点がそれ以下として達成度を評価させていただく。
事務局	他に何かご意見はありませんか。
清水委員	温室効果ガス排出量の推計では、換算係数は固定か。それとも、その年度の係数を使用しているのか。
事務局	その年度の係数を使用している。
清水委員	では、使用量での評価は無理ということですね。係数次第でかなり変わってしまうので、評価はかなり厳しくなってしまう。
遊津委員	その辺りは、注釈が必要になってくるのではないかと思う。
清水委員	省エネの努力がまるっきり無駄になってしまう。市民や事業者の削減努力が何とか目に見える形で評価を工夫してもらえたらと思う。
事務局	確かに、使用量としては下がっているが、係数が上がっているので、表に出てこない。平成23、24年度に節電を頑張っていたいただいて、平成25年度夏の節電目標についても、昨年度以下の10%くらいが出てくるのではないかと思われる。
清水委員	原子力発電が化石燃料による発電に置き換わっているため、今までの削減よりも非常に大きい削減だということが目に見える形になればいいと思う。
事務局	その辺りは、今後、奈良市の環境白書でどこまで見える化を達成できるかであり、さ

小松原委員と遊津委員で協議していただき、小松原委員が座長に選任された。
小松原委員から、遊津委員を副座長にご指名いただき、承認された。

〔事務連絡〕

会議録は、事務局で作成し、委員の皆様にもメールでお送りし、ご確認いただいた後、ホームページに公開する。

また、次回開催日については、候補日を複数日メールで連絡させていただき、ご都合の良い方が多い日に開催させていただく。